



# 第19回(令和3年度)

# 全日本ゼネラルチャンピオン賞

# ダイヤモンドマーク賞

## 吉村和道鳩舎(北関東栃木地区連盟・宇都宮中央連合会)

### 吉村和道鳩舎のプロフィール

- ・鳩歴：41年 ・レース歴：39年(移転16年)
- ・鳩舎規模：種鳩6坪100羽 選手鳩6坪140羽
- ・主力系統：吉峰系
- ・代表翔歴：日本優秀鳩舎賞2回(07年・08年)、  
日本AP賞、ゴールド賞(共に08年)、  
Rg～900K各総合優勝
- ・春レースのスタート羽数：67羽
- ・選定スタイル：  
Rg …データ  
地区N …データ(1羽、2羽目)、  
コンディション(3羽目)  
GP …データとコンディション  
桜花賞…データ

鳩舎規模、鳩舎位置といった鳩レース特有のハンディキャップがほぼ解消され、レースマンとしての実力が最も問われる「全日本ゼネラルCH賞」。令和3年度は、受賞者に前回の1位であり歴代最多の“絶対王者”及川 茂鳩舎(新日本)が名を連ねるも、全国1位の称号「ダイヤモンドマーク賞」に輝いたのは、協会三大最高賞全受賞者——「日本優秀鳩舎賞」、「日本AP賞」、そして「全日本ゼネラルCH賞」では5回の獲得歴をもつ吉村和道鳩舎(宇都宮中央)。“もう一つの日本一”というキャッチフレーズに胸が躍り、このタイトルに挑んできた末、ついにビジョンドリームを実現した…!



獲得ポイント

# 8pt

合計入賞率：0.56056

レース	鳩番号	羽色	性別	参加羽数	順位	入賞率
春Rg	①19HT03348	B	♀	572羽	105位	0.18357
	②18HT06636	BC	♀	572羽	19位	0.03322
	③19HT03213	BCW	♀	572羽	25位	0.04371
地区N	④20HT04316	BC	♂	281羽	21位	0.07473
	⑤19HT03213	BCW	♀	281羽	6位	0.02135
	⑥18HT06636	BC	♀	281羽	20位	0.07117
GP	⑦18HT06669	BC	♀	128羽	16位	0.12500
	⑧19HT03338	B	♂	128羽	1位	0.00781

令和3年度 全日本ゼネラルチャンピオン賞ランキング発表!



## ダイヤモンド最有力候補が満を持して「日本一」!

ピジョンスポーツとは、参加羽数距離、地形といった様々なハンデを抱えているとあって、「成績＝実力」だと「正確に判断できるものではない。そこで本場・ベルギーでは、主にマーク制度とポイント制度の双方を用いたタイトル、つまり「実力面」を押し出した規程でレースマンたちを評価、顕彰している。うちオールラウンドの成績を競う「ゼネラルCH賞」は、本国にとつて最も権威ある賞として君臨していることはつとに有名だ。

当協会では、03年にベルギーに倣う形で「全日本ゼネラルCH賞」を設立。制限なしの無差別級タイトル「日本優秀鳩舎賞」と双璧を成す協会最高賞としてスタートした。規程は「マーク鳩2羽」、「20%以内入賞」をポイント獲得の条件とし、レースは春と秋の2シーズン。春はRgから桜花賞あるいはGNまで、秋は「若鳩でRgと計5レースが対象」となっており、全距離に強いというのを追求——と「日本優秀鳩舎賞」と同じく「日本一」を決めるにふさわしい内容となっていた。それから17年に秋Rgの条件だった若鳩限定を解除、そして令和元年には対象レースを春シーズンのみとし、またRgと地区Nの対象が「マーク2羽」から「3羽」に、と規程変更が2度行われた。

ともあれ実力面が大きく抽出されることから、受賞者は鳩舎規模を問わず強豪、あるいは新進気鋭のレー

スマンで彩られている。乱戦模様が開される一方で、全国1位にあたる「ダイヤモンドマーク賞」だけは前回（\*令和元年度）を含め、及川茂鳩舎（新日本）が10回受賞。「絶対王者」として君臨し、「及川鳩舎一強時代」の真つただ中にある。

令和3年度、全日本ゼネラルCH賞には、またしても及川鳩舎の名がエントリイされていた。ところが、である。もう一つの「日本一」である「ダイヤモンドマーク賞」に輝いたのは、なんと「絶対王者」ではなかった。頂点に立ったのは、唯一8ポイントを獲得した吉村和道鳩舎（宇都宮中央）。歴代3番目——5回（08年、09年、13年、14年、15年）の受賞歴をもつ、ダイヤモンドマーク賞「最有力候補ともいふべき競翔家がついに「日本一」の称号を手に入れた。

### 「成鳩重視」にマークを変更

吉村鳩舎は05年に現在の鳩舎に移転してからブレイクを果たした競翔家で、「日本優秀鳩舎賞」を2度も手にするほどの実力者。とはいえ所属する連盟の規模からして、この最高賞の受賞を狙うことは非常に難しく、同鳩舎が2回目に受賞した08年以降、北関東栃木連盟から「日本優秀鳩舎賞」は現れていない。しかし競翔家たるもの、やる限りは頂点に立ちたいというもの。吉村鳩舎もその「性（さが）」に抗うどころか、そのために移転までした求道者である。そして彼のジレンマの先にあつたのが、「日本優秀鳩舎賞」と同等の権威をもち

ながらも鳩レース特有のハンデがほぼ解消された「全日本ゼネラルCH賞」だったというわけである。

「といつても最初はお遊び程度でした。確か13年度からレース鳩誌での発表がカラーページになったと思うのですが、その時のキヤッチコピーが「もう一つの日本一」! このフリーズに胸が躍りましてね。協会が日本一ときちんと評価してくれるならゼネラルを狙うしかないと思い、強く意識するようになりました。」

翌14年に全国6位、15年には全国3位にあたる「ゴールドマーク賞」に選出され、意識は結果に反映された。ところが16年からの中率がガクンと落ち、授賞につながらず。そこでゼネラルCH賞の傾向を分析しなおしてみたところ、「成鳩重視」という答えにたどり着いた。

「イメージ的にRg、地区Nは二歳鳩の方が速いということで、成鳩は度外視していました。しかしゼネラルは、20%以内に入賞させればいいわけですよ。改めて自鳩舎のデータを見てみたら、成鳩の方が該当していました。そこで、今春は頭を完全に切り替えました。」

### 持ち寄りリストを怒りと悲しみで破り捨てる!

マーク対象を成鳩一本に。王道ともいえるこの戦法がハマった。これまでの成績で「速い」ではなく「20%内」に入賞している。そこでこの成鳩をマークすると、GPまででなんとフルポイントを達成したのだ。

「といつても地区Nの3羽目は、若鳩でした（笑）。当初、マークしようとしていた成鳩がRgで想像以上に遅かった。マークするかしらないか悩んだのですが、鳩舎内でピカピカしていた若鳩がいたので、イチかバチかの1羽で勝負したんです。ちなみに、マークから外した成鳩も20%内で優に帰ってきていたので、いずれにしてもポイントは獲れていましたけどね。」

残るは桜花賞である。吉村鳩舎はここでポイントを落としたことはほぼないということから、悪くて9点、良ければ10点。その目には、「日本一」の三文字だけが映っていたようだ。地区N、GPでポイントを獲得してきた成鳩2羽をマークし、勝負をかける。ところが……

「20%どころか、待てど暮らせど帰ってこない。そうしたら3日目に1羽、後日に北海道で保護されて輸送されてきました。8ポイントでしたので、もう「日本一」はないと思ひ、気づいたら、いやもう無意識でした。怒りと悲しみで持ち寄りリストを破いてゴミ箱に投げつけていました（笑）。」

連合会が予備の書類を残していたことで申請は事なきを得たが、一歩間違えていれば……。ともあれ、吉村鳩舎のこのタイトルに賭ける熱きピジョンスピリッツが窺えるエピソードだ。

### 日本一鳩舎の王道「吉村鳩舎」

さて自身の読みとは裏腹に憧れだった「もう一つの日本一」を手に入れた吉村鳩舎だが、「成鳩重視」



ダイヤモンドマーク賞(全国1位)受賞のポイントゲッター総覧

③北関東栃木連盟Rg572羽中総合25位

⑤北関東栃木連盟地区N281羽中総合6位

19HT03213 BCW ♀ 吉村和道作翔

- 12HF13777 シャーリー 釜井盛司作
- 99HF09043 B 釜井作翔
- 400K12,220羽中総合2位、11,127羽中総合14位
- 04HF12564 B 釜井作翔
- 400K2,226羽中優勝他入賞
- 16HT05300 BCW 吉村和道作
- 10KA08300 B 奥住・竹井共同作
- “ゴッドウィング”(09年東日本稚内GN総合2位)直仔
- “吉峰ビックドリーム” BCW 吉村作翔
- 08年JC総合3位 孫/ゴールドエクセレントビジョン

④北関東栃木連盟地区N281羽中総合21位

20HT04316 BC ♂ 吉村和道鳩合作翔

- 13HT07918 B 吉村和道作
- 04ZA60787 B 吉村作
- “吉峰パーディー”の親子掛け
- “吉峰フューチャー”
- 06HT05775 B 吉村和道作翔
- 07年春北関東栃木連盟Rg総合優勝
- “吉峰長万部17” 15HT05437 BC 吉村和道作翔
- 17年北関東栃木連盟地区N700K総合優勝
- 13KA26142 B UFOロフト作
- “吉峰萌香” 07HT04736 BC 吉村作翔
- シルバーエクセレントビジョン認定

⑦GP北関東栃木連盟128羽中16位

18HT06669 B ♂ 吉村和道鳩合作翔

- 11MA02466 BC 宮内淑雅作
- 07DA54308 BLKC 一文字ロフト作
- “G.CHグッドモーニング号”の直仔
- DV0620-07-827 PHP・ブローカンブ作
- “ユーロダイヤモンド”の娘
- 12HT00500 B 吉村和道作
- “吉峰ドリーム” BC 吉村和道作翔
- 05年東日本CH北関東栃木連盟優勝
- 直仔/09年東日本CH北関東栃木連盟優勝
- 04LB03032 B プリモロフト作
- “サリナ”の娘

⑧GP北関東栃木連盟128羽中優勝

19HT03338 B ♂ 吉村和道鳩合作翔

- 14HF03636 和久 仁作
- 03LH08701 B 松丸弘道作
- 04HF10311 B 杉山 豊作
- 08HT00604 BC 吉村和道作翔
- 09年春200K~800Kまで入賞 吉峰系
- 05HT06890 BC 吉村作
- 07HT04653 BC 吉村作翔
- 07年秋北関東栃木連盟400K総合優勝

①北関東栃木連盟Rg572羽中総合105位

19HT03348 B ♀ 吉村和道鳩合作翔

- 13KA26142 B UFOロフト作
- 直仔/地区N総合優勝、Rg総合3位
- 05KA10643 BC UFOロフト作
- 12KA41453 B UFOロフト作
- 全妹/“スピーディー”(12年春埼玉連盟Rg総合優勝)
- 18HT06643 チョコ 吉村和道作翔
- 200K8位 同腹/400K5位
- 14HF04926 B 足澤秀昭作翔
- 15年会長賞全国1位
- 08HT00711 B 吉村作翔
- 300K、400K連続優勝 吉峰系

②北関東栃木連盟Rg572羽中総合19位

⑥北関東栃木連盟地区N281羽中総合20位

18HT06636 BC ♀ 吉村和道鳩合作翔

\*21年春北関東栃木連盟400K総合優勝



- 08LK18157 B 高橋善之作
- 06LK02509 BC 高橋作翔 07年ジャパンカップ総合2位
- 05LK15883 BC 伊藤 豊作 06年ジャパンカップ総合9位
- 15HT02753 BC 吉村和道作翔 吉峰系
- 11HT04540 BP 吉村作翔 12年ジャパンカップ総合8位
- 11HT04556 BCW 吉村作翔 12年ジャパンカップ総合19位

という戦法が生きたことは、「自鳩舎の飛び筋」があったからこそ、ということを書いておく。吉村鳩舎の飛び筋「吉峰系」は、ローセンスの「ブリュー」とフアブリー系の融合で作られた「吉峰銘鳩賞号(※85年東日本CH特別地区優勝)」を源鳩とし、自鳩舎の記録鳩——近親交配で練り上げられてきたもの。結果、Rg桜花賞まで総合優勝鳩を輩出した上、「日本AP賞」や「ゴールドエクセレントビジョン」といったハイクラスなAPまでも誕生させており、全距離対応にして全天候型の万能筋にまで昇華されている。それゆえか、実は八郷・伊賀の両国際鳩舎においてもその活躍率は高い。ともあれポイントゲッターは全て、吉峰の名を冠したトリ、つまり源鳩の血が確実に脈を打っているのだ。

これまでの「ダイヤモンドマーク賞」の受賞者も及川鳩舎を筆頭に横地光彦鳩舎や吉田三男鳩舎然り、全距離に強い「オリジナルライン」の形成者ばかり。自分用の万能筋がいることは、マークの中に大きなアドバンテージになることはいうまでもないだろう。

その一方、吉村鳩舎は鳩レースのために現在の場所に引っ越しながらも、1シーズンどころか、全レース休んだことのないほどの競翔家にして愛鳩家。当人はダイヤモンドマーク賞をラッキーだったと捉えているようだが、実は日本の競翔家になる要素——その全てが吉村鳩舎にあった……!



# 第19回(令和3年度) 全日本ゼネラルチャンピオン賞 プラチナマーク賞



ナンバーワンポイントgetter

- ①ニュー近畿連盟 R g 2,804羽中総合 6位
- ⑦ニュー近畿連盟 GP 630羽中総合25位

**20XA05149 BC ♀ 住谷勝三鳩舎作翔**  
\*21年度シルバーエクセレントビジョン認定  
20年秋ニュー近畿連盟R g 総合10位



全国 **2**位

**住谷勝三鳩舎**

(ニュー近畿地区連盟・豊中連合会)

初受賞

獲得ポイント **7**pt

合計入賞率: **0.22778**

レース	鳩番号	羽色	性別	参加羽数	順位	入賞率
春Rg	①20XA05149	BC	♀	2,804羽	6位	0.00214
	②19XA13306	BC	♀	2,804羽	146位	0.05207
地区N	③19XA13453	BC	♀	1,602羽	6位	0.00375
	④18XA09208	BC	♂	1,602羽	64位	0.03995
	⑤19XA13386	G	♂	1,602羽	86位	0.05368
GP	⑥20XA04265	B	♀	630羽	23位	0.03651
	⑦20XA05149	BC	♀	630羽	25位	0.03968

- 16XA01092 B 住谷勝三作
- 12XA02147 BC 住谷作翔
- 12年秋ニュー近畿連盟300K総合優勝
- B11-2090170 BW アルベルト・デルワ作
- 16XA01246 B 住谷勝三作
- 異母兄弟/19年秋ニュー近畿連盟400K総合優勝
- “フォーシックス” 11XA06666 BWP 住谷作翔
- 12年春ニュー近畿連盟Rg 500K 総合優勝
- 全弟/13年秋ニュー近畿連盟300K総合優勝
- NL13-1959445 BC P・ファンデルムエ作
- 異母兄弟/“ジャクリヌ”(センスNPO優勝、シャードンNPOS位)

## 住谷勝三鳩舎のプロフィール

- 鳩歴: 50年 ・ レース歴: 47年
- 鳩舎規模: 種鳩25坪130羽 選手鳩15坪200羽
- 主力系統: リンパレイ系 ベルギー、オランダ輸入系
- 代表翔歴: 日本優秀鳩舎賞2回(93年・21年)、会長賞 全国1位(21年)、200K~1200K 総合優勝
- 春レースのスタート羽数: 180羽
- 選定スタイル:  
Rg ...データ  
地区N ...データとコンディション(1羽目)、データ(2羽、3羽目)  
GP ...データ

全国2位は7ポイントを獲得した5鳩舎によって競われた。入賞率勝負をトップで制したのは、「カイザー」の異名をもつニュー近畿連盟最強鳩舎の1人——住谷勝三鳩舎である。同鳩舎はこの賞レースを狙った意識はなく、参加した結果、獲得できたという感覚しかない。ゆえに今回2ポイント獲得し、シルバーエクセレントビジョンにも認定された「20XA05149(※①、⑦)」、会長賞全国1位の「19XA13453(※③)」など、とにかく素晴らしいレーサーに恵まれたことがその勝因だと考えている。

とはいえ、全日本ゼネラルCH賞

充実したレーシングチーム  
近畿の皇帝、初受賞で全国2位!

はマークタイトルであるため、そのレーサーを自身の手で発掘しなければ受賞はまずない。住谷鳩舎の場合、持ち寄り2、3日前に水浴、あるいは給餌後に素早く止まり木、つまりパーソナルエリアに戻るレーサーに着目し、それらの系統、過去の成績が良いのかどうかを調べ、各々のレースにマッチするかどうかをチェック。これらの条件をクリアしたトリたちは、持ち寄り当日に掌の感覚による最終審査が行われ、2羽、ないし3羽に絞られるといった手法であった。これらの歯車がかみ合ったことで、初受賞でありながらいきなり全国2位、プラチナマーク賞を射止めたというわけだが、この成果を受け、住谷鳩舎は改めて全日本ゼネラルCH賞というタイトルを意識したという。

「せっかく2位になれたので、それならもう1つ上を狙いたいという気持ちが強くなりましたよ。」

同鳩舎は今春、同賞の他、かつて受賞したことのある「日本優秀鳩舎賞」に28年ぶりに返り咲いた。そして規程を改めて読み直していたところ「オリエンタルチャンプ」たる称号があることを発見。現在78歳の住谷鳩舎は、「もう少し若かったら狙っていた」と笑っていたものの、その目は霸王のそれ。管理、鳩、洞察力、その全てが全国レベルにあることを証明したことで、「カイザー」は新たなモチベーションを手に入れたようだ。





# 第19回(令和3年度) 全日本ゼネラルチャンピオン賞 ゴールドマーク賞

ナンバーワンポイントゲッター

③静岡連盟Rg 1,157羽中総合181位

④静岡連盟地区N610羽中総合 3位

⑥GP静岡連盟 346羽中 57位

19PA04989 BC ♀ 国持和義鳩舎作翔

\*20年静岡連盟地区N総合14位



全国3位  
初受賞

国持和義鳩舎  
(静岡地区連盟・大静岡連合会)

獲得  
ポイント

7pt

合計入賞率: 0.45728

レース	鳩番号	羽色	性別	参加羽数	順位	入賞率
春Rg	①20PA03595	BC	♀	1,157羽	20位	0.01729
	②19PA04981	BC	♀	1,157羽	40位	0.03457
	③19PA04989	BC	♀	1,157羽	181位	0.15644
地区N	④19PA04989	BC	♀	610羽	3位	0.00492
GP	⑤20PA03655	B	♀	346羽	26位	0.07514
	⑥19PA04989	BC	♀	346羽	57位	0.16474
桜花賞	⑦20PA03642	B	♀	239羽	1位	0.00418



- 15PA05582 BC 国持和義作翔  
16年300K総合6位
- 11DA49125 BC 横地光彦作
- 08PA10329 BC 国持作翔
- 16PA04819 BC 国持和義作翔  
17年500K総合2位、短距離AP賞1位
- 11PA05219 BW 伏見・国持共同作  
菊花賞連盟優勝×菊花賞連盟優勝
- 12PA08103 国持作翔  
12年菊花賞連盟3位

### 国持和義鳩舎のプロフィール

- ・鳩歴: 20年 ・レース歴: 20年
- ・鳩舎規模: 種鳩3坪60羽 選手鳩2.5坪80羽
- ・主力系統: 横地スピード系、絆のライン、長島輸入系
- ・代表翔歴: 桜花賞総合優勝、連盟最優秀鳩舎賞
- ・春レースのスタート羽数: 55羽
- ・選定スタイル:  
Rg ...データ  
地区N ...データ(1羽、2羽目) コンディション(3羽目)  
GP ...データとコンディション  
桜花賞 ...データとコンディション

### 連盟マークの延長にあった “黄金の賞”

静岡連盟はマークレースが盛んな団体である。ゆえに同じマークタイトルである全日本ゼネラルCH賞には、12年度「ダイヤモンドマーク賞」の横地光彦鳩舎を筆頭に数多くの受賞者を輩出してきた。そして本年度、名門連盟から新たなタイトルホルダーが誕生。しかも全国3位——ゴールドマーク賞での選出である。

ニューヒーローは、国持和義鳩舎の地元鳩界において総合優入賞多数の実績を誇る強豪だ。全日本ゼネラルCH賞は狙っていたというより、連盟のマークレースを意識した上での獲得だったとのこと、自身にとって望外の受賞だったようである。

国持鳩舎のマーク選定方法は、全兄弟の成績やコンディションなどあらゆる視点からチェックを入れているものの、主に前レースの成績の良い悪いで決めているとのことだ。今回も基本的にそのスタンスであったものの、前年のレース中断により成鳩が残っていたことで、選択の幅が広がる。いつもなら「歳鳩中心だったところを20年春の最終レース——地区Nの1番手・2番手をマークチームに迎え入れる。結果、いずれもポイントゲッターとして活躍し、うち「19PA04989」\*(③、④、⑥)は3ポイントを獲得した上、地区Nでは2年連続1番手に帰還し総合3位に入賞。「エース」として存在感を示した。この簡単そうであるが、桜花賞でも再現している。しかもその「20PA03642」\*(⑦)は、総合優勝! 全体的に上向き加減かつ前レースの結果が最も良かったこと、「いける」とマークした「歳鳩だった。ともあれ環境によって鍛え上げられたインサイト能力を全国レベルにまで開花させた国持鳩舎。自身は一発の総合優勝より総合力を競うタイトルの方に重きを置いているようで、とりわけ「日本優秀鳩舎賞」を最大の目標としている。ハンデなしの「実力」タイトルである全日本ゼネラルCH賞でベスト3入りを果たした今、もう1つの最高賞への飛躍は決して夢物語ではない。



# チャンピオン賞・ベストマーク賞



## 富田欣宏鳩舎 (埼玉地区連盟・埼玉北葛連合会)

獲得ポイント **7pt**

\*春レースのスタート羽数：43羽

合計入賞率：0.52406

レース	鳩番号	羽色	性別	参加羽数	順位	入賞率
春Rg	①19KA35031	BC	♂	6,412羽	2位	0.00031
	②20KA26390	B	♂	6,412羽	865位	0.13490
	③20KA20467	B	♂	6,412羽	1175位	0.18325
地区N	④20KA20467	B	♂	5,255羽	92位	0.01751
	⑤20KA20475	BW	♂	5,255羽	844位	0.16061
GP	⑥19KA35031	BC	♂	3,732羽	2位	0.00054
桜花賞	⑦20KA20439	B	♀	1,485羽	40位	0.02694



全国 **4位**  
初受賞

「知られざる強豪、選鳩眼でも覚醒！」

7ポイント勝負の3番手——ベストマーク賞のトップにあたる全国4位には、他団体から移籍したばかりの富田欣宏鳩舎が選出された。同鳩舎は「不死鳥号」という最年長飛翔日本記録を「700K」と「1000K」の2つもつ超銘鳩を誕生させたことでも有名な強豪。今春は「ブロックCH賞」、そして最高賞である「日本優秀鳩舎賞」も獲得しており、国内最激戦区である埼玉に移籍したことによりその実力が抽出。大ブレイクを果たしたと言えよう。自身初参加となるこの賞レースは、43羽でスタート。ポイントゲッターは、自鳩舎の飛び筋「寛松系」と「AAAロフト系」、そして異血として信頼を寄せている新井繁鷹鳩舎の「白鶴系」の混成、あるいはそのいずれかで構成されている。これらの筋は富田鳩舎の下で距離を問わず活躍鳩を輩出しており、まさしく万能筋だ。マークの選定方法は、規程4レースとも「データとコンディション」を参考にしたとのこと。「データ」面では「一族の成績」とのことだが、そもそも選手鳩は、ほとんど前述の三本柱であるため、「コンディション」面に神経を多く使ったに違いない。その「コンディション」面は「全昇の飛び」、「掌」、「観察」でチェック。ただし桜花賞は訓練メインとしたため「全昇の飛び」は視点から外したようだ。主に注視した点は、「全昇の飛び」だと運動時間、「掌」は手持ちと直感、「観察」だと目の輝き、羽毛の艶（ホールマーク）、餌の食いのスピードだったようだ。

果たして初参加にして、ベストマーク賞の頂点に立った富田鳩舎。優れた選鳩眼も実証されたとあって、同タイトルに限らずこの「知られざる強豪」の今後の活躍に注目であらう。

## 黒田哲夫鳩舎 (千葉東地区連盟・上総連合会)

獲得ポイント **7pt**

\*春レースのスタート羽数：220羽

合計入賞率：0.60919

レース	鳩番号	羽色	性別	参加羽数	順位	入賞率
春Rg	①17LK00916	BC	♀	4,489羽	173位	0.03854
	②18LK02716	B	♂	4,489羽	265位	0.05903
	③18LK02625	BC	♂	4,489羽	828位	0.18445
地区N	④17LK00916	BC	♀	3,705羽	546位	0.14737
GP	⑤18LK02716	B	♂	2,333羽	20位	0.00857
桜花賞	⑥17LK00916	BC	♀	1,133羽	52位	0.04590
	⑦18LK02716	B	♂	1,133羽	142位	0.12533



全国 **5位**  
6回目

「ゼネラリスト勝負でマーク全鳩帰還！」

全国5位となったのは、国内最強鳩舎の1人・黒田哲夫鳩舎だ。同鳩舎はこれで6連続受賞を達成。この記録は「絶対王者」こと及川茂鳩舎に次ぐ快挙である。黒田鳩舎は実績あるいは血統で、スベシャリストを絞り込み、それをマークしていくという合理的なシステムで受賞を重ねてきた。しかし今回のポイントゲッターは3羽しかおらず、ゼネラリストを選定した印象である。あくまで結果論であるが、3ポイントを獲得した2羽「18LK02716（\*②、⑤、⑦）」はゴールドエクセレントピジョン、「17LK00916（\*①、④、⑥）」はシルバークセレントピジョンにそれぞれ認定されており、また至高のレース鳩「スーパーエクセレントピジョン」が見える翔歴だった。

さてこのゼネラリストたちをマークしたのは、「系統」ではなく、「前年までの成績」で上位にきたという点から。かつ持ち寄り時に「掌」、「観察」でコンディションをチェックし、前者は「筋肉が硬くない」、「羽毛がフワ、サラ、ピシットしているか」、後者は「生き生きとした表情と動きをしているか」に注目した末、選ばれたようである。

黒田鳩舎は21年をもって競翔家として引退するとの由。目標としていた日本最優秀鳩舎賞との二冠「オリエンタルチャンピオン」は夢のままで終わってしまったが、実は今回、20%内というくくりさえなければ、マーク鳩10羽は全て帰還していた…。可能性を残したとあって、「黒田哲夫」という競翔家の物語に幕を閉じようとしていることを考え直して頂きたいものである。



# 第19回(令和3年度)全日本ゼネラルチャ

全国 **6**位  
初受賞



## 鈴木 齊鳩舎(千葉東地区連盟・東金セントラル連合会)

獲得ポイント **7**pt

\*春レースのスタート羽数: 128羽

合計入賞率: **0.70919**

レース	鳩番号	羽色	性別	参加羽数	順位	入賞率
春Rg	①19LK01932	B	♂	4,489羽	334位	0.07440
	②18LK01304	B	♀	4,489羽	662位	0.14747
	③18LK10895	B	♂	4,489羽	558位	0.12430
地区N	④19LK12976	B	♀	3,705羽	166位	0.04480
	⑤19LK01932	B	♂	3,705羽	564位	0.15223
GP	⑥20LK05951	B	♀	2,333羽	309位	0.13245
桜花賞	⑦20LK05951	B	♀	1,133羽	38位	0.03354

名門連合会の「長」として

全国6位には、初受賞の鈴木 齊鳩舎が輝いた。同鳩舎は近年、協会タイトルホルダーを続々と誕生させている名門・東金セントラル連合会の代表。会員たちの熱意に影響され、視線を全国に目を向けていた矢先での受賞である。

さて鈴木鳩舎の選び方は「データとコンディション」という合理的なスタイルだ。「データ」では、「過去のレース全体の成績」で上位あるいは平均してまずまずであるかに注目し、とりわけRg、地区Nでは確実にポイントを獲得するためであろう。実績多き「成鳩」をマークしている。また桜花賞では「長距離は血統」ということから、「族の実績」を追加したようだ。一方の「コンディション」では、主に持ち寄り日の「雰囲気」で判断。どちらかというと「データ」を重視した形であろう。ポイントゲッターは「タカチユウライン」を含め、地元の飛び筋をメインとしたトリばかりだ。うちRgの3番手「18LK01304(\*②)」と2ポイントを獲得した「20LK05951(\*⑥、⑦)」は全兄弟であり、その両親——「14LK16080×13LK04791」は、いずれも代々オールラウンドに活躍鳩を輩出している系統である。それゆえの期待であろう。

今回の宿願達成に対し、鈴木鳩舎は驚きが強かったようで、勝因も前述の通り「勘」の一言。しかも少しでも勘が働くよう体調管理をしっかり行っているとのことだ。ともあれ、はれて全国デビューを果たした上、プラチナ、ゴールドマークの領域「7点」での受賞！名門連合会の「長」の強さを示したことは間違いない！

全国 **7**位  
初受賞



## 飛田輝明鳩舎(茨城地区連盟・茨城北連合会)

獲得ポイント **6**pt

\*春レースのスタート羽数: 280羽

合計入賞率: **0.23457**

レース	鳩番号	羽色	性別	参加羽数	順位	入賞率
春Rg	①19HA05968	B	♀	4,910羽	4位	0.00081
	②19HA05831	BCW	♂	4,910羽	361位	0.07352
地区N	③19HA05813	BC	♀	3,684羽	242位	0.06569
GP	④18HA14155	B	♀	2,285羽	119位	0.05208
GN	⑤18HA17389	BC	♀	824羽	1位	0.00121
	⑥19HA06021	BC	♀	824羽	34位	0.04126

オリエンタルチャンピオン候補誕生!

本年度のゼネラルCH賞のポーターは「6」であり、その中鳩舎は「14」に上った。4枠争いとなる中、アタマ二つ抜けたのは、昨年より本格的に同賞を狙い始めた「17年度の日本」飛田輝明鳩舎だ。

ポイントゲッターは、主にグロンドライスのスーパーCH、貞帝、こと「ジッター」をベースに全距離対応にまで昇華されたオリジナルラインで編成されている。今回を含め歴代のダイヤモンドマーク受賞者を見ての通り、我流、なおかつ距離を問わない「目系統」をもっていると本賞を狙うにあたって非常にアドヴァンテージとなるようだ。

飛田鳩舎のマーク選定はというと「データ」と「コンディション」の両視点から、と王道的な手法である。うち「データ」では「過去のレース成績」に重きを置いており、ゆえにポイントを獲得した選手は全て「成鳩」だ。これに対し「コンディション」では、「舍外の飛び」に注目していたようである。

挑戦2年目で早くもベストテン入りを果たした飛田鳩舎だが、その感想は「最高にうれしい」の一言。しかも本年度の同鳩舎は「日本優秀鳩舎賞」「日本AP賞」も受賞と、協会三大最高賞全てを手中に収めており、その強さは据え置きどころか、ますます冴えてきている感がある。果たして管理、血統に限らず、洞察力まで全国レベルにあることを証明した飛田鳩舎、未だ誰しもが獲得したことがない究極の称号——「オリエンタルチャンピオン」候補者がまた一人、誕生した……!



# チャンピオン賞・ベストマーク賞



## 米田幸由司鳩舎(ニュー近畿地区連盟・なんば連合会)

獲得ポイント **6pt**

\*春レースのスタート羽数: 200羽

合計入賞率: **0.26036**

レース	鳩番号	羽色	性別	参加羽数	順位	入賞率
春Rg	①20XY00159	BW	♀	2,804羽	38位	0.01355
地区N	②20XY00458	B	♀	1,602羽	27位	0.01685
	③20XY00105	B	♀	1,602羽	93位	0.05805
GP	④20XY00458	B	♀	630羽	7位	0.01111
	⑤20XY00464	BC	♀	630羽	15位	0.02381
桜花賞	⑥20XY00084	BCW	♀	365羽	50位	0.13699



全国 **8位**

初受賞

### スーパーチヨコレートで初受賞!

「6点」の上位2鳩舎目となる全国8位には、米田幸由司鳩舎が選出。総合優勝多数そして「日本AP賞(※07年)」の受賞歴をもつ強豪が、「全日本ゼネラルCH賞」初受賞を決めた。

そのポイントゲッターたちを見ると、ヨーロッパのスーパーCHで形成した自系統「エクセル輸入系」、あるいは「協合作」で構成。うち2点を獲得した上、連盟のイヤリングAP賞の1位にも選出された「20XY00458(※②、④)」を含めた5羽中4羽がベルジュトラックN最高分速にして、スーパーチヨコレート

「ネヴェ」の筋だ。テールの大元であるペトラス・ヘルマンズの「栗」に帰するこのラインは、米田鳩舎において、前述の活躍劇の主役であり、ゆえに絶大な信頼を寄せている。「勝ち筋」。しかも全国品評会の総合一席鳩まで誕生させており、まさに「見てよし」、「飛んでよし」、そして「生んでよし」のパーフェクトラインだ。ちなみにチヨコレート色の系統化に日本で成功しているのは、おそらくこの筋だけであろう。

そもそも戦力の大半はこの「ネヴェ」の血が流れているため注目したのは「コンデーション」。とりわけ筋肉の感覚で選んだようだ。

07年以来に協会三大最高賞の一峰を射止めた米田鳩舎。ニュー近畿連盟に移籍したことでモチベーションが高まっているとのことで、今回の受賞から最高賞の常連鳩舎へと飛躍を遂げるかもしれない。

## 古里治彦鳩舎(ニュー近畿地区連盟・京都雅連合会)

獲得ポイント **6pt**

\*春レースのスタート羽数: 313羽

合計入賞率: **0.30107**

レース	鳩番号	羽色	性別	参加羽数	順位	入賞率
春Rg	①20XA10832	S	♂	2,804羽	49位	0.01748
	②18XA11262	BC	♀	2,804羽	299位	0.10663
地区N	③20XA10832	S	♂	1,602羽	3位	0.00187
	④19XA09031	BC	♀	1,602羽	201位	0.12547
GP	⑤20XA10832	S	♂	630羽	14位	0.02222
桜花賞	⑥18XA11122	BCP	♀	365羽	10位	0.02740



全国 **9位**

初受賞

### 初受賞の先にあつた大快挙!

全国9位もまたニュー近畿連盟から今年、「日本優秀鳩舎賞」と「日本AP賞」のダブルを決めた古里治彦鳩舎が初のベストテン入りを果たした。

同鳩舎のマーク選定法は「データとコンデーション」、あるいは「コンデーション」のみの二刀流をメインとしながらも、桜花賞に関しては「コンデーション」を重視したような感じだ。まずデータ面で注目しているのは「過去の成績」と「族の実績」。結果、ポイントゲッター4羽中3羽が「成鳩」となっている。一方、残り1羽の「20XA10832(※①、③、⑤)」は、日本AP賞を多数輩出しているマルセリスの「ズプリント」の他、内山勝博鳩舎の「ブルーリターダ」を経由して、「ハリー」や「グライネディルク」など世界的APを生み出している「ガニバル」の血が絡んでおり、まさしく「銘血の塊」。しかも200Kで優勝を果たしており、一歳鳩でありながらも、血統、翔歴ともに信頼を寄せるにふさわしいリーサーだ。ゆえに3ポイント獲得したのは然るべきかもしれない。

「コンデーション」では週に1〜2回のペースで羽毛の艶を観察。良好だと感じていくかどうかも参考にした感じだ。

古里鳩舎は前述の通り、協会三大最高賞全てを獲得した。おそらくそれは同時に限らずニュー近畿連盟史上初の快挙である。しかも同鳩舎は50代と競翔家としてまだまだ若い。まさに日本鳩レース界を担うに頼もしい逸材だと言えよう。



# 第19回(令和3年度)全日本ゼネラルチャ

全国 **10**位  
14回目



## 及川 茂鳩舎(東京中地区連盟・新日本連合会)

獲得ポイント **6pt**

\*春レースのスタート羽数: 57羽

合計入賞率: **0.39211**

レース	鳩番号	羽色	性別	参加羽数	順位	入賞率
春Rg	①20MM00018	B	♂	699羽	12位	0.01717
	②20MM00808	B	♂	699羽	63位	0.09013
地区N	③20MM00018	B	♂	438羽	21位	0.04795
	④20MM01163	B	♀	438羽	19位	0.04338
GP	⑤20MM00018	B	♂	253羽	11位	0.04348
桜花賞	⑥20MM00003	BW	♀	60羽	9位	0.15000

最多受賞更新! 絶対王者の意地をみる

6ポイント決勝において、全国10位最後の椅子に座ったのは「絶対王者」こと及川 茂鳩舎である。勝負強さを示したわけだが、ともあれ受賞数はこれで14回! 史上最多更新となった。今回のマークは「データとコンディション」の両面からセレクトしたことに変わりはないが、ポイントゲッターを見る限り前回(\*19年)、ダイヤモンマーク賞を獲得した時とは異なっていると感じた。例えば3点を獲得した「エース」①「20MM00018」(\*①、③、⑤)は、父親が「ディカプリオ」の直仔、母親が「ハリ」の近親鳩と、完全なる異血交配。これまで大きく貢献してきた「ジャンテリールシルバー」×「ズブリンター」から四代にわたる黄金交配も他の3羽に絡んでいるものの、血量からしたら薄くなっているものも多く、主役とは言い難いだろう。しかも19年に当たった「ターボ軍団」の交配は、該当なし…。本来の力が発揮できていない印象だ。

どうやら、猛禽類の襲撃が激化したことによる舎外不足のダメージは今春も大きく影響したようである。それでも十八番であり、また「真の実力タイトル」である「全日本ゼネラルCH賞」でギリギリとはいえ、受賞を決めたところはさすが、といったところであろう。ここに「絶対王者」の意地をみた!

## 全日本ゼネラルチャンピオン賞・データ

### 全日本ゼネラルチャンピオン賞受賞回数(3回以上)

氏名	回数	所属
及川 茂鳩舎	14回	新日本連合会 ↑ <b>更新</b>
大高 繁鳩舎	6回	北つくば連合会
吉村 和道鳩舎	6回	宇都宮中央連合会 ↑ <b>更新</b>
黒田 哲夫鳩舎	6回	上総連合会 ↑ <b>更新</b>
吉田 三男鳩舎	5回	東愛知連合会
磯島 保博鳩舎	4回	瀬戸内連合会
鈴木 信義鳩舎	4回	東京南部連合会
橋本三紀男鳩舎	4回	しらかぎ西連合会
鶴岡 英明鳩舎	3回	元・成田連合会
丹羽 和一鳩舎	3回	三重第三連合会
杉山 幸正鳩舎	3回	元・静岡中央連合会
横地 光彦鳩舎	3回	静岡県連合会

### 令和3年度 受賞外の6pt鳩舎 ※会員名簿順

受賞者	所属	pt&入賞率
大塚 敏彦鳩舎	佐原連合会	6 0.53865
小田 義光鳩舎	埼玉北辰連合会	6 0.42903
武井 勝彦鳩舎	総連合会	6 0.56591
青柳 良雄鳩舎	北塚中央連合会	6 0.58905
矢島圭一郎鳩舎	京浜横須賀連合会	6 0.43298
横地 光彦鳩舎	静岡県連合会	6 0.61768
岩本 勝男鳩舎	関西連合会	6 0.60639
熊谷 好修鳩舎	福井県連合会	6 0.72098
杉田 政雄鳩舎	福井県連合会	6 0.40657
磯島 保博鳩舎	瀬戸内連合会	6 0.45667

※所属は2021年時点

### ダイヤモンドマーク賞歴代受賞鳩舎

年	受賞者	所属	ポイント
2021年	吉村和道鳩舎	宇都宮中央連合会	8 0.56056
2020年	—コロナ禍による春レース中止で授賞なし—		
2019年	及川 茂鳩舎	新日本連合会	9 0.42927
2018年	新井 繁鳩舎	埼玉北辰連合会	9 0.54017
2017年	及川 茂鳩舎	新日本連合会	8 0.24776
2016年	及川 茂鳩舎	新日本連合会	9 0.28629
2015年	及川 茂鳩舎	新日本連合会	9 0.31482
2014年	及川 茂鳩舎	新日本連合会	9 0.52200
2013年	及川 茂鳩舎	新日本連合会	8 0.25992
2012年	横地光彦鳩舎	静岡県連合会	8 0.59994
2011年	—授賞なし—		
2010年	吉田三男鳩舎	東愛知連合会	9 0.93155
2009年	及川 茂鳩舎	新日本連合会	10 0.40588
2008年	及川 茂鳩舎	新日本連合会	9 0.40910
2007年	大高 繁鳩舎	茨城県西連合会	8 0.33733
2006年	及川 茂鳩舎	新日本連合会	10 0.29797
2005年	及川 茂鳩舎	新日本連合会	10 0.20747
2004年	今井雅之鳩舎	姫路連合会	10 0.14929
2003年	今井雅之鳩舎	姫路連合会	9 0.11162

※所属連合会は当時